

【晉紀八】起旃蒙赤奮若，盡著雍執徐，凡四年。

■晉、**劉漢**劉淵漢・前趙、▲慕容氏、**成漢**李雄・大成、**前涼**前涼・張軌

続国訳漢文大成 経子史部 第 5 卷 220p、(五胡十六国のそれぞれの地方政権がどの時点で自立したか、諸説ある)

孝惠皇帝下永興二年〈乙丑，305年〉

■**夏，四月**，張方（長安の司馬顥が派遣）は**羊后**を廢す。（長安に入るも、武力で東台を威圧して廢后実施）

■**【皇甫重の天水冀城陥落】****游楷**（金城太守、司馬顥が派遣）等は**皇甫重**（秦州刺史、元々司馬乂派、302 年天水の冀城を守る）を攻め（太安二年より攻め首尾二年），累年克つ能わず，**重**は其の養子の**昌**を遣わして外に救いを求めしむ。**昌**は司空の**越**に詣り，**越**は太宰の**顥**の新たに山東と連和する（前卷前年）を以て，肯えて兵を出さず。**昌**は乃ち故の殿中人の**楊篇**と詐りて**越**の命を稱し，**羊后**を金墉城に迎える。宮に入り，**后**の令を以て兵を發して**張方**を討ち，大駕を奉迎せんとす。事は倉猝に起こり，百官は初め皆な之に従う。俄に其の詐りを知り，相い與に**昌**を誅す。**顥**は請いて御史を遣わして詔を宣べしめ，**重**を諭して降ら令む，（5-221p）**重**は詔を奉じず。是より先、城中（天水の冀城）は**長沙厲王**（前卷前年にあり）及び**皇甫商**の已に死す（前卷太安二年にあり）を知らず，**重**は御史の驕人（厩の御、御史に伴って来た）を獲り，問いて曰く、
「我が弟の將兵は來たり，至らんと欲す未だや？」

驕人は曰く、

「已に河間王の害する所と為る。」

重は色を失い，立ちて驕人を殺す。是に於いて城中は外に救い無きを知り，共に**重**を殺し以て降る。**顥**は馮翊太守の**張輔**（劉沈を破る功あり）を以て秦州刺史と為す。

■**六月**，甲子（60-57+1=4 日），安豐元侯の**王戎**（竹林の七賢の一人）は邾（前卷前年に邾に奔る）に薨ず。

前涼 **【張軌は鮮卑を撃破、涼州での存在感高まる】****張輔**は秦州に至り，天水太守の封尚を殺し，以て威を立てんと欲す。又た隴西太守の**韓稚**を召す，**稚**の子の**樸**は兵を勒して**輔**を撃つ。**輔**の軍は敗れ，死す。涼州司馬の**楊胤**は**張軌**に言つて曰く、

「**韓稚**は刺史を擅殺す，明公は鉞に一方に杖る，以て討たざる可からず。」

軌は之に従う，中督護（中軍督護）の**汜瑗**を遣わして衆二萬を帥いて**稚**を討たしめ，**稚**は**軌**に詣りて降る。未だ幾もなくして，鮮卑の**若羅拔能**は涼州を寇し，**軌**は司馬の**宋配**を遣わして之を撃たしめ，**拔能**を斬り，俘は十餘萬口，威名は大いに振う。（ここで張軌は自立の方向へ。ここから前涼として扱う）

劉漢 ■ **【劉淵は司馬騰を攻め、拓跋氏が救援】**漢王の**淵**は東嬴公の**騰**（山西南部に後退）を攻め，**騰**は復た師を拓跋猗遄に乞う。**衛操**は**猗遄**に之を助けるを勧める。**猗遄**は輕騎數千を帥いて**騰**を救い，漢將の**慕容豚**を斬る。詔して**猗遄**に大單于を假し，操右將軍を加える。甲申（20+60-57+1=24 日），**猗遄**は卒し，子の**普根**は代わりて立つ。

【東海王司馬越の挙兵】

■ **【東海王司馬越を盟主として挙兵】**東海中尉（晉の諸王国には郎中令・中尉・大農あり、三卿とす）の**劉洽**は**張方**が劫かして車駕を遷す（前年前卷にあり）を以て，司空の**越**に兵を起こして之を討つを勧める。**秋，七月**，**越**は

檄を山東の征、鎮、州、郡に傳えて云わく、

「義旅（義兵）を糾帥し、天子を奉迎し、還りて舊都（洛陽）を復さんと欲す。」

東平王の**楸**は之を聞き、懼れる。長史の**王修**は**楸**に説いて曰く、

「東海（王）は、宗室の重望なり。今義兵を興す、公は宜しく徐州（84 卷永寧元年に徐州を督す）を擧げて以て之を授くべし、則ち難を免かれん、且つ克く讓る之美有り矣。」

楸は之に従う。**越**は乃ち司空を以て徐州都督を領し、**楸**は自ら兗州刺史（去年范陽王の虓。荀晞に兗州を行わす、荀晞は着任せず許昌に留まる）と為る。詔して即ち使者の**劉虔**を遣わして之を授けしむ。是の時、**越**の兄弟は並びて方任に據り（**越**の弟の略は青洲都督、模は冀州都督）、是に於いて范陽王の**虓**及び**王浚**等は共に**越**を推して盟主と為し、**越**は輒ち刺史以下を選置し、朝士（帝にしたが射て長安に同行せざる者）は多く之に赴く。

■ 〔司馬穎旧勢力の動向〕 成都王の**穎**は既に廢せられ（前卷前年にあり）、河北の人は多く之を憐れむ（**穎**初め自望あり、後驕侈と雖も亂よりいい）。**穎**の故の將の**公師籓**等は自ら將軍を稱し、兵を趙、魏に起こし、衆は數萬に至る。

劉漢 ■ 〔奴隸に売られた石勒の登場〕 初め、上黨の武郷の羯（匈奴別種）人の**石勒**は、膽力有り、騎射を善くす。并州は大いに饑え、建威將軍の**閭粹**^{らんすい}は東嬴公の**騰**を説き諸胡を山東に執り、賣りて軍實に充つ。**勒**も亦た掠せ被れ、賣られて荏平（平原國の県、山東省東臨道荏平県、現・聊城市荏平區）の人の**師懽**の奴と為る、**懽**は其の狀貌を奇とし而して之を免ず。（5-222p）**懽**の家は馬牧に鄰し、**勒**は乃ち牧帥の**汲桑**と壯士を結んで群盜と為る。**公師籓**が起こるに及び、**桑**は**勒**と數百騎を帥いて之に赴く。**桑**は始め**勒**に命じて石を以て姓と為し、**勒**を名と為さしむ。**籓**は攻めて郡縣を陷し、二千石、長史を殺し、轉た前みて、鄴を攻める。平昌公の**模**は甚だ懼れる。范陽王の**虓**は其の將の**荀晞**を遣わして鄴を救わしめ、廣平太守の譙國の**丁紹**と共に**籓**を撃ち、之を走らす。

■ 八月，辛丑（37-56+1=?），大赦す。

■ 〔司馬越の指令届かず、山東の混乱〕 司空の**越**は琅邪王の**睿**を以て平東將軍と為し、徐州の諸軍事を監し、下邳に留守せしむ。**睿**は**王導**に請いて司馬と為し、委ねるに軍事を以てす。**越**は甲士三萬を帥い、西に蕭縣（沛郡の県、江蘇省徐海道蕭県、現・宿州市蕭県）に屯し、范陽王の**虓**は許より滎陽に屯す。**越**は製を承けて豫州刺史の**劉喬**を以て冀州刺史と為し、范陽王の**虓**を以て豫州刺史（項に治す）を領せしむ。**喬**は**虓**が天子の命に非ざるを以て、兵を發して之を拒む。**虓**は**劉琨**（**劉蕃**の子）を以て司馬と為し、**越**は**劉蕃**を以て淮北護軍と為し、**劉輿**を潁川太守と為す。**喬**は尚書に上し、**輿**の兄弟の罪惡を列べ、因りて兵を引きて許を攻め、其の長子の**祐**を遣わして兵を將いて**越**を蕭縣之靈壁に拒み、**越**の兵は進む能わず。東平王の**楸**は兗州に在り、徵求して已まず、郡縣は命に堪えず。范陽王の**虓**は**荀晞**を遣りて兗州に還らしめ（前卷前年に還す）、**楸**を徙して青州を都督せしむ。**楸**は命を受けず、山東の諸侯に背き、**劉喬**と合す。

■ 〔司馬顥は司馬越の挙兵警戒〕 太宰の**顥**は山東の兵起こるを聞き、甚だ懼れる。**公師籓**が成都王の**穎**の為に兵を起こすを以て、壬午（18+60-56+1=23 日）、**穎**を表して鎮軍大將軍、都督河北諸軍事と為し、兵千人を給す。**盧志**を以て魏郡太守と為し、**穎**に隨いて鄴に鎮ぜしめ、以て之を撫安せんと欲す。又た建武將軍の**呂朗**を遣わして洛陽に屯せしむ。

■ 〔司馬顥は劉輿兄弟討伐令〕 顥は詔を發し、東海王の**越**等をして各々國に就か令むも、**越**等は従わず。會々**劉喬**の上事（東海王**越**の挙兵、**劉喬**が許を攻め**越**を禦ぐ事の上書）を得、冬，十月，丙子（12+60-55+1=18 日）、下詔して稱す、

「劉輿は范陽王の虢を迫脅し、凶逆を造構す。其れ鎮南大將軍の劉弘（荊州を都督）、平南將軍の彭城王の釋（宛の屯す）、征東大將軍の劉准（統は劉準、揚州を都督）をして、各々統べる所を勒し、劉喬と力を並せ、張方を以て大都督と為し、精卒十萬を統べ、呂朗と共に許昌に會し、輿の兄弟を誅せ令むべし。」

釋は、宣帝の弟の子の穆王の權（宣帝の弟東武城侯廆の子）之孫也。丁丑（13+60-55+1=19日）、顓は成都王の穎をして將軍の樓褒等を領し、前車騎將軍の石超をして北中郎將の王闡等を領し、河橋に據り、劉喬の繼援と為さ使む。喬を鎮東將軍に進め、節を假す。

■「劉弘の書、同族の亂を諫める」劉弘は喬及び司空の越に書を遣わして、之をして怨みを解き兵を釋き、（5-222p）同じく王室を奨け使めんと欲す、皆な聽さず。弘は又た上表して曰く、

「頃より兵戈は紛亂し、猜禍は鋒生し、疑隙は群王に構えられ、災難は宗子に延べる。今夕は忠を為し、明旦は逆と為り、翩（是非反復の易き事）として其れ反し而して互いに戎首（兵を起こす首領）と為り。載籍（書物・歴史）以來、骨肉之禍は未だ今の如き者有らざる也、臣は竊に之を悲しむ！今邊陲には備豫之儲え無く、中華に杼軸之困（詩に曰く、小東大東、杼軸其れ空しと。杼は機の緯を持つもの、軸は機の経を受けるもの、皆織具。この困とは織物の乏しき、転じて国の貧しきをいう）有り、而して股肱之臣、國體を惟わず、職（主）として尋常を競い（八尺を尋、二尋を常。小なるをいう。僅少なるを争いて大局を顧みざるをいう）、自ら相い楚剝す。萬一四夷が虚に乗り變を為せば、此れ亦た猛虎交々鬪いて自ら卞莊に效す者なり矣。臣は以爲えらく宜しく速かに明詔を發し越等に詔し、兩つながら猜嫌を釋き、各々分局を保た令むべし。今より以後、其の詔書を被らずして、擅に兵馬を興す者有れば、天下は共に之を伐たん。」

時に太宰の顓は方に關東を拒ぎ、喬に倚りて助けと為し、其の言を納れず。

■「劉琨は河北に走る」喬は虚に乗りて許を襲い、之を破る。劉琨は兵を將いて許を救う、及ばず、遂に兄の輿及び范陽王の虢と俱に河北に奔る。琨の父母は喬の執る所と為る。劉弘は張方の殘暴を以て、顓が必ず敗れるを知り、乃ち參軍の劉盤を遣わして督護（一軍を督する、都護は行營の諸將を護す）と為し、諸軍を帥い司空の越の節度を受けしむ。

■「劉弘の紙書にみな感動」時に天下は大亂し、弘は専ら江、漢を督し、威は南服に行われる。事を謀り成る者有れば、則ち曰く、

「某人之功なり」

と、如し負敗する有れば、則ち曰く、

「老子之罪なり」。

と、興發（帥を興し衆を動かし財賦を徵發する）有る毎に、守相に手書し、丁寧款密なり。所以に人は皆な感じ悦び、急に之に赴き、咸な曰く、

「劉公一紙書を得れば、十の部從事（州にあり、管内の諸郡を部す）よりも賢なり。」

前の廣漢太守の辛冉は弘に説くに從横之事を以てし、弘は怒り、之を斬る。

■星有り北斗に孛す。

■平昌公の模（鄴より派遣）は將軍の宋胄を遣わして河橋に趣く。

■「司馬顓は羊后を殺せず」十一月、立節將軍の周權は、檄（司空司馬越の檄）を被ると詐りて、平西將軍を自稱し、復た羊后を立てる。洛陽令の何喬は權を攻め、之を殺し、復た羊后を廢す。太宰の顓は矯詔し、羊后の屢々姦人の立つ所と為るを以て、尚書の田淑を遣わして留臺（時に荀藩・劉劭・周馥が居る）に敕して后に死を賜わる。詔書は累りに至り、司隸校尉の劉劭等は上奏し、固く執りて以爲わく、

「羊庶人は門戸は殘破し、空宮に廢放され、門禁は峻密にして、姦人と亂を構えるを得る縁無し。衆は愚

智と無く、皆な其の冤を謂う。今一の枯窮之人を殺して、而して天下をして傷慘せ令むるとも、何の治するに益あらん！」

顓は怒り、呂朗を遣わして噉を収める。噉は青州に奔り、高密王の略に依る。(5-224p) 然れども羊后も亦た是を以て免かるるを得たり。

■十二月、呂朗等は東に滎陽に屯す、成都王の穎は進みて洛陽に據る。

■【劉琨は王浚を味方に、八面六臂の活躍】劉琨は冀州刺史の太原の温羨を説き、位を范陽王の虓に譲ら使む。虓は冀州を領し、琨を遣わして幽州に詣りて師を王浚に乞わしむ。浚は突騎(天下の精鋭部隊)を以て之に資し、王闡を河上に撃ち、之を殺す。琨は遂に虓と兵を引いて河を濟り、石超を滎陽に斬る。劉喬は考城(陳留郡の県、河南省開封道考城県、現・開封市蘭考県)より引いて退く。虓は琨及び督護の田徽を遣わして東に東平王の楸を廩丘(濮陽郡の県、山東省東臨道范県、現・濮陽市范県、又濟寧道荷澤県、現・荷澤市鄆城县西北水堡)に撃ち、楸は走りて國に還る。琨、徽は兵を引いて東に越を迎え、劉祐を譙に撃ち、祐は敗死し、喬の衆は遂に潰え、喬は平氏(河南省汝陽道桐柏県、現・南陽市桐柏県)に奔る。司空の越は進みて陽武(營陽郡の県、河南省河北道陽武県、現・新郷市原陽県)に屯し、王浚は其の將の祁弘を遣わして突騎の鮮卑、烏桓を帥いて越の先驅と為さしむ。

【江東の陳敏の反乱】

■【陳敏は歴陽で挙兵、江東に割拠】初め、陳敏は既に石冰に克ち、自ら勇略無敵と謂い、江東に割據する之志有り。其の父は怒りて曰く、

「我が門を滅ぼす者は、必ず此が兒也！」

遂に以て憂卒す。敏は喪を以て職を去る。司空の越是敏を起こして右將軍、前鋒都督と為す。越是劉祐の敗る所と為り、敏は東に歸りて兵を収めるを請い、遂に歴陽に據りて叛す。呉王の常侍(晉の大国には左右常侍あり)の甘卓は、宮を棄てて東に歸り、歴陽に至り、敏は子の景の為に卓の女を娶り、卓をして假に皇太弟の令と稱し、敏を揚州刺史と拜せ使む。敏は弟の恢及び別將の錢端等をして南に江州を略し、弟の斌をして東に諸郡を略せ使む。江州刺史の應邈、揚州刺史(秣陵に治す)の劉機、丹楊太守(秣陵に治す)の壬曠は皆な官を棄てて走る。

■【陳敏は豪傑名士の動向に苦慮】敏は遂に江東を據有し、顧榮を以て右將軍と為し、賀循を丹楊内史と為し、周玘を安豐(後漢盧江郡の県、魏は盧江を分けて安豐郡を置く、安徽省淮泗道霍邱県西南、現・六安市霍邱県)太守と為し、凡そ江東の豪傑、名士は、咸な收禮を加え、將軍、郡守と為る者は四十餘人。或いは老疾有れば、就きて秩命を加える。循は詐りて狂疾を爲し、免かるるを得、乃ち榮を以て丹楊内史を領せしむ。玘も亦た疾と稱し、郡に之かず。敏は諸名士の終に己の為に用いざるを疑い、盡く之を誅せんと欲す。榮は敏に説いて曰く、

「中國は喪亂し、胡夷は内に侮る。今日之勢いを觀るに、復た振う能わず、百姓は將に遺種無からんとす。江南は石冰之亂を経ると雖も、人物は尚ほ全くし、榮は常に孫(孫権)、劉(劉備)之主の以て之を存する有る無きを憂える。今將軍の神武は世にあらず、勳效は已に著われ、帶甲は數萬、舳艫は山積し、若し能く君子に委信し、各々懷を盡くすを得使めば、蒂芥(小さい刺、転じて微細)之嫌^{うたが}いを散じ、讒詔之口を塞ぎ、則ち上方の數州(揚州以西の荊州・江州・豫州・涼州・益州)は、檄を傳え而して定まる可し。然らざれば、終に濟さざらん也。」

敏は乃ち止む。敏は僚佐に命じて己を推して都督江東諸軍事、大司馬、楚公と為し、九錫を加え、尚書に

列上し、稱す、

「中詔を被り、江より沔、漢に入り、鑾駕を奉迎せん。」(5-225p)

■ 【劉弘の陳敏討伐始動】 太宰の**顓**は**張光**を以て順陽(郡名、河南省汝陽道淅川県、現・南陽市淅川県 or 南陽市鄧州市)太守と為し、歩騎五千を帥いて荊州に詣り**敏**を討たしむ。**劉弘**は江夏太守の**陶侃**、武陵太守の**苗光**を遣わして夏口に屯せしめ、又た南平太守の汝南の**應詹**を遣わして水軍を督して以て之に繼がしむ。**侃**は**敏**と同郡(盧江の人)、又た同歳に吏に擧げられる。隨郡(湖北省江漢道隨県、現・隨州市隨県)内史の**扈懷**は**弘**に言つて曰く、

「**侃**は大郡に居り、強兵を統べる、脱し異志有れば、則ち荊州は東門無し矣！」

弘は曰く、

「**侃**之忠能は、吾は之を得ること已に久しく、必ず是れ無き也。」

侃は之を聞き、子の**洪**及び兄の子の**臻**を遣わして**弘**に詣らしめ以て自ら固くし、**弘**は引いて參軍と為し、資(食料を与えて帰らす)し而して之を遣る。曰く、

「賢叔征行し、君の祖母は年高し、便ち歸る可き也。匹夫之交りすら、尚ほ心に負かず、況んや大丈夫を乎！」

■ 【陶侃の運船の戦艦転換】 **敏**は**陳恢**を以て荊州刺史と為し、武昌を寇す。**弘**は**侃**に前鋒督護を加え以て之を御ぐ。**侃**は運船を以て戦艦と為し、或は以て不可と為す。**侃**は曰く、

「官船を用いて官の賊を撃つ、何爲れぞ不可ならん！」

侃は**恢**と戦い、屢々之を破る。又た**皮初**、**張光**、**苗光**と共に**錢端**を長岐(江夏郡の界、湖北省江漢道旧漢陽府内、現・武漢市漢陽区)に破る。

■ 【劉弘の張光の処遇】 南陽太守の**衛展**は**弘**を説いて曰く、

「**張光**は、太宰の腹心なり、公は既に東海に與^{くみ}す、宜しく**光**を斬り以て向背を明かにすべし。」

弘は曰く、

「宰輔の得失は、豈に**張光**之罪なるや！人を危くして自ら安んじるは、君子は爲さざる也。」

乃ち**光**の殊勲を表し、遷擢を加えんことを乞う。

劉漢是の歳、離石は大いに饑え、漢王の**淵**は徙りて黎亭(上黨郡壺関県、山西省冀寧道長治県の東、現・長治市上党区)に屯し、邸閣の穀に就く。太尉の**宏**を留めて離石を守らしめ、大司農の**卜豫**をして糧を運び以て之に給せ使む。

孝惠皇帝下光熙元年〈丙寅、306年〉

■ **春、正月**、戊子(1日、元嘉暦一致)朔、日之を食する有り。

■ 【顓は張方を憚り、決せず】 初め、太弟の中庶子の蘭陵の**繆播**は司空の**越**に寵有り。**播**の從弟の右衛率の胤は、太宰の**顓**の前妃之弟也。**越**之兵を起こすや、**播**、胤を遣わして長安に詣り**顓**を説き、(顓をして)帝を奉じて洛に還ら令め、**顓**と陝を分けて伯と為るを約す。**顓**は素より**播**兄弟を信重し、即ち之に従わんと欲す。**張方**は自ら罪(洛陽を剽掠し天子を脅かして長安に移す)の重きを以て、誅首と為るを恐れ、**顓**に謂つて曰く、

「今形勝之地に據り、國は富み兵は強く、天子を奉じて以て號令す、誰か敢て従わざる、奈何して手を拱いて制を人に受けるや！」

顓は乃ち止む。劉喬は敗れるに及び、顓は懼れ、兵を罷めて、山東と和解せんと欲す。張方が従わざるを恐れて、猶豫して決せず。

■ [司馬顓は張方の首を司馬越に送る] 方は素より長安の富人の鄧輔と親善し、以て帳下督と為す。顓の參軍の河間の畢垣は、嘗て方の侮る所と為り、因りて顓に説いて曰く、

「張方は久しく霸上に屯し（許で会する前に劉喬敗れ）、（5-226p）山東の兵盛んなるを聞き、盤桓（進み難き貌）して進まず、宜しく其の未だ萌さざるを防ぐべし。其の親信の鄧輔は具に其の謀に縣（続は知）わる。」
繆播、繆胤も復た顓を説く、

「宜しく急に方を斬り以て謝すべし、山東は勞せず而して定まる可し。」

顓は人をして輔を召さ使む、垣は迎えて輔に説きて曰く、

「張方は反かんと欲す、人は卿は之を知ると謂う。王が若し卿に問えば、何の辭をか以て對えん？」

輔は驚いて曰く、

「實は方が反くと聞かず、之を為すこと奈何せん？」

垣は曰く、

「王が若し卿に問えば、但だ爾り爾りと言え。然らざれば、必ず禍いを免れざらん。」

輔は入り、顓は之に問いて曰く、

「張方は反くや、卿は之を知る乎？」

輔は曰く、

「爾り。」

顓は曰く、

「卿を遣わして之を取らしめん、可なる乎？」

又た曰く、

「爾り。」

顓は是に於いて輔をして書の方^{ちか}に送らしめ、因りて之を殺さしむ。輔は既に方に睚づき、刀を持ち而して入り、閣を守る者は疑わず。方は火下にて函を發き、輔は其の頭を斬る。還りて報じ、顓は輔を以て安定太守と為す。方の頭を司空の越に送り以て和を請う。越は許さず。

■ [司馬穎は華陰に立ち往生] 宋胄は河橋を襲い、樓褒は西に走る。平昌公の模は前鋒督護の馮嵩を遣わして宋胄に會して洛陽に逼らしむ。成都王の穎は西に長安に奔らんとし、華陰（陝西省關中道華陰県、現・渭南市華陰市）に至り、顓が已に山東と和親するを聞き、留まりて敢えて進まず。呂朗は滎陽に屯し、劉琨は張方の首を以て之に示し、遂に降る。甲子（0+60-24+1=?）、司空の越は祁弘、宋胄、司馬纂を遣わして鮮卑を帥いて西に車駕を迎え、周馥を以て司隸校尉と為し、節を假し、諸軍を都督し、澠池に屯せしむ。

■ [山東の劉柏根の亂と王彌逃亡] 三月、愍（東萊郡の県、山東省膠東道黃県、現・煙台市竜口市）令の劉柏根は反し、衆は萬を數え、愍公を自稱す。王彌は家僮を帥いて之に従い、柏根は彌を以て長史と為し、彌の從父の弟の桑を東中郎將と為す。柏根は臨淄（青州都督の治所、山東省膠東道臨朐県、現・淄博市臨淄区）を寇し、青州都督の高密の王略は劉暉をして兵を將いて之を拒ましむ。暉の兵は敗れ、洛陽に奔り、略は走りて聊城（平原郡の県、山東省東臨道聊城県、現・聊城市東昌府区）を保つ。王浚は將を遣わして柏根を討たしめ、之を斬る。王彌は亡げて長廣山（長廣郡長廣県の山、山東省膠東道萊陽県、現・煙台市萊陽市）に入り群盜と為る。

■ [寧州の李毅の危機、女傑の秀は勝つ] 寧州は頻歳に饑疫し、死者は十萬を以て計る。五苓の夷（雲南

の夷種の反乱、前卷前年に始めて反す)は強盛にして、州兵は屢々敗れる。吏民は流れて交州に入る者は甚だ衆し、夷は遂に州城を圍む。李毅は疾病して、救援の路は絶え、乃ち上疎して言う、

「寇虐を式遏する能わず、坐して殄^{てんべい}斃を待つ。若し矜恤を垂れざれば、乞う大使を降し、臣が尚ほ存するに及び、臣に重辟を加えよ。若し臣已に死すれば、屍を陳して戮を為せ。」

朝廷は報ぜず、數年を積み、子の釗は洛より往きて之を省し、未だ至らず、毅は卒す。毅の女の秀は、明達なりて父の風有り、衆は秀を推して寧州の事を領せしむ。秀は戰士を奨厲し、城に嬰りて固く守る。城中の糧は盡き、鼠を炙り草を抜き而して之を食す。夷の稍怠たるを伺い、輒ち兵を出して掩撃し、之を破る。(5-227p)

成漢 **【道士范長生の優遇戦略】** 范長生 (五斗米道の道士、張魯の鬼道などの流れで、蜀に影響力あり) は成都に詣り、成都王の雄は門に迎えて、版を執り、拜して丞相と為し、之を尊びて范賢と曰う。

【司馬越が実権掌握】

■ **【司馬越側の祁弘は帝を奉じて洛陽に戻る】** 夏, 四月, 己巳 (5+60-53+1=13 日), 司空の越は兵を引いて温に屯す。初め、太宰の顓は以爲えらく張方死すれば、東方の兵は必ず解くべしと。既に而して東方の兵は方の死するを聞き、争いて關に入り、顓は之を悔いる。乃ち郗輔を斬り、弘農太守の彭隨、北地太守の刁默を遣わして兵を將いて祁弘を湖に拒む。五月, 壬辰 (28-22+1=7 日), 弘等は隨、默を撃ち、大いに之を破らしめ。遂に西に關に入り、又た顓の將の馬瞻、郭偉を霸水に敗り、顓は單馬にして逃げて太白山 (陝西省關中道郿県の東南、現・宝鸡市眉県) に入る。弘等は長安に入り、所部の鮮卑は大いに掠し、二萬餘人を殺し、百官は奔散し、山中に入り、橡實 (とちの実) を拾いて之を食す。己亥 (35-22+1=14 日), 弘等は帝を奉じて牛車に乗りて東に還る。太弟の太保の梁柳を以て鎮西將軍と為し、關中を守らしむ。六月, 丙辰 (52-52+1=1 日、元嘉曆一致) 朔, 帝は洛陽に至り、羊后を復す。辛未 (7+60-52+1=16 日), 大赦して、改元す (光熙)。

■ **【關中も司馬越支配下に入る】** 馬瞻等は長安に入り、梁柳を殺し、始平太守の梁邁と共に太宰の顓を南山 (太白山) に迎える。弘農太守の裴廙、秦國內史の賈龕、安定太守の賈疋等は兵を起こして顓を撃ち、馬瞻、梁邁を斬る。疋は、詡之曾孫也。司空の越は督護の麋晃を遣わして兵を將いて顓を撃ち、鄭に至り、顓は平北將軍の牽秀をして馮翊に屯せしむ。顓の長史の楊騰は、詐りて顓の命と稱し、秀をして兵を罷ま使め、騰は遂に秀を殺し、關中は皆な越に服し、顓は城 (長安城) を保ち而して已む。

成漢 **【李雄は大成皇帝即位】** 成都王の雄 (字は中雋、李特の三子) は皇帝に即位し、大赦し、改元して晏平と曰い、國號を大成とする。父の特を追尊して景皇帝と曰い、廟號を始祖とする。王太后 (李雄の母羅氏) を尊びて皇太后と曰う。范長生を以て天地太師と為す。其の部曲を復 (課役を免じ税を免じる) し、皆な徴税に豫らざらしむ。諸將は恩を待み、互に班位を争う、尚書令の閻式は上疎し、

「請う漢、晉の故事を考え、百官制度を立てん」

之に従う。

■ 秋, 七月, 乙酉 (21-21+11 日、元嘉曆一致) 朔, 日之を食する有り。

■ **【司馬越の支配体制】** 八月, 司空の越を以て太傅と為し、尚書事を録せしむ。范陽王の虓を司空と為し、鄴に鎮せしむ。平昌公の模を鎮東大將軍と為し、許昌に鎮せしむ。王浚を驃騎大將軍と為し、東夷 (王浚

は鮮卑烏桓を恃み羽翼とし、東夷諸軍を督せしむ)、河北諸軍事を都督し、幽州刺史を領せしむ。**越**は吏部郎の**穎川の庾敳**(続、庾敳×)を以て軍諮祭酒と為し、前太弟の中庶子の**胡母輔之**を從事中郎と為し、黃門侍郎の河南の**郭象**を主簿と為し、鴻臚丞の**阮修**を行參軍と為し、**謝鯤**を掾と為す。**輔之**は樂安の**光逸**を**越**に薦し、**越**も亦た之を辟す。**敳等**は皆な虚玄を尚び、以て世務に心に嬰けず、酒を縦にし放誕なり。**敳**は貨を殖して厭く無く、**象**は薄行にして、好みて權を招く。**越**は皆な其の名の世に重きを以て、故に之を辟す。(5-228p)

■ **[司馬勳は殺され、司馬穎は鄴に幽閉]** **祁弘**之關に入る也、成都王の**穎**は武關より新野(河南省汝陽道新野県、現・南陽市新野県)に奔る。會々新城の元公の**劉弘**は卒し、司馬の**郭勳**は亂を作り、**穎**を迎えて主と為さんと欲す。治中の順陽の**郭舒**は弘の子の**璠**を奉じて以て**勳**を討ち、之を斬る。南中郎將の**劉陶**に詔して**穎**を收めしむ。**穎**は北に河を渡り、朝歌に奔り、故の將士を收め、數百人を得、**公師籓**に赴かんと欲す。**九月**、頓丘(元は県で武帝泰始元年に郡を置く、河南省河北道濬県、現・鶴壁市)太守の**馮嵩**は之を執り、鄴に送る。范陽王の**虓**は殺すに忍びず而して之を幽す。**公師籓**は白馬(河南省河北道滑県の東北、現・安陽市滑県)より南に河を渡り、兗州刺史の**荀晞**は討ちて之を斬る。

■ 東嬴公の**騰**の爵を進めて東燕王と為し、平昌公の**模**を南陽王と為す。

■ **[司馬穎の誅殺]** **冬、十月**、范陽王の**虓**は薨ず。長史の**劉輿**は成都王の**穎**の素より鄴人の附く所と為るを以て、秘して喪を發せず、偽りて人をして臺使の爲せ令め詔と稱し、夜、**穎**に死を賜わり、並びて其の二子を殺す。**穎**の官屬は先に皆な逃散し、惟だ**盧志**のみ隨從し、死に至るまで怠らず、收めて而して之を殯す。太傅の**越**は**志**を召して軍諮祭酒と為す。

■ **[劉琨を并州刺史とし北の重しとす]** **越**は將に**劉輿**を召さんとし、或は曰く、

「**輿**は猶ほ膩(脂垢、皮膚の垢の肥滑なるもの)のごとき也、近づけば則ち人を汚す。」
至るに及び、**越**は之を疎んず。**輿**は密かに天下の兵簿及び倉庫、牛馬、器械、水陸之形を視て、皆な之を默識す。時に軍國は多事にして、會議する毎に、長史の**潘滔**より以下、對える所を知る莫し。**輿**は機に應じて辨晝(事宜を弁析し計画)し、**越**は膝を傾けて酬接し、即ち以て左長史と為し、軍國之務めは、悉く以て之に委ねる。**輿**は**越**を説いて其の弟の**琨**を遣わして并州に鎮せしめ、以て北面之重しと為す。**越**は**琨**を表して并州刺史と為し、東燕王の**騰**を以て車騎將軍、都督鄴城諸軍事と為し、鄴に鎮せしむ。

■ **[惠帝は食中毒で死す、懷帝即位]** **十一月**(元嘉曆十一月閏月)、己巳(5+60-49+1=17日)、夜、**帝**は餅(續は麵の并の作の字)を食べて中毒となり、庚午(6+60-49+1=18日)、顯陽殿に崩ず。**羊后**は自ら太弟の**熾**(前卷永興元年に皇太弟)に於いて嫂と為るを以て、**太后**と為るを得ざるを恐れ、將に清河王の**覃**を立てんとす。侍中の**華混**は諫めて曰く、

「太弟は東宮に在ること已に久しく、民望は素より定まる、今日は寧んぞ易える可けん乎！」
即ち露版をもて馳せて太傅の**越**に告(續は召)げ、太弟を召して宮に入らしむ。**后**は已に**覃**を召して尚書閣に至らしめ、變を疑い、疾に托し而して返す。癸酉(9+60-49+1=21日)、太弟は**皇帝**に即位し、大赦し、**皇后**を尊びて**惠皇后**と曰い、弘訓宮に居らしむ。母の**王才人**を追尊して**皇太后**と曰う。妃の**梁氏**を立てて**皇后**と為す。

■ **懷帝**(字は豐成、武帝の第25子)は始めて舊制に遵い、東堂(大極殿の東堂)に於いて政を聽く。宴會に至る毎に、輒ち群官と與に衆務を論じ、經籍を考える。黃門侍郎の**傅宣**は歎いて曰く、

「今日復た**武帝**之世を見る矣！」

■ **十二月**、壬午(18-18+1=1日、元嘉曆一致)朔、日之を食する有り。

■ 〔司馬模は司馬顥を誅殺〕太傅の**越**は詔書を以て河間王の**顥**を徴して司徒と為し、**顥**は乃ち徴に就く。南陽王の**模**（越の弟で、兄弟の身を安んじようとしたらしい）は其の將の**梁臣**を遣わして之を新安（河南省河洛道澠池県、現・三門峽市澠池県）に邀えしめ、（5-229p）車上に之を扼殺し、並せて其の三子を殺す。

■辛丑（37-18+1=20 日），中書監の**温羨**を以て左光祿大夫と為し，司徒を領せしむ。尚書左僕射の**王衍**を司空と為す。

■己酉（45-18+1=28 日），**惠帝**を太陽陵に葬す。

■ 〔上黨の劉琨は民を撫循〕**劉琨**は上黨に至り，東燕王の**騰**は即ち井陘より東下す。時に并州は饑饉し，數々胡寇（**劉淵**の事）に掠める所と為り，郡縣は自ら保つ能う莫し。州將（并州の諸將）の**田甄**、**甄**の弟の**蘭**、**任祉**、**祁濟**、**李暉**、**薄盛**等及び民萬餘人をして，悉く**騰**に隨いて穀に冀州に就か使め，號して「乞活」と為し，餘す所之戸二萬を滿たさず，寇賊は縱横し，道路は斷塞す。**琨**は兵を上黨に募り，五百人を得，轉鬪し而して前む。晉陽に至り，府寺は焚毀し，邑野は蕭條たり，**琨**は撫循勞徕し，流民は稍く集まる。

孝懷皇帝上永嘉元年（丁卯，307年）

■春，正月，癸丑（49-48+1=2 日），大赦し，改元す。

■吏部郎の**周穆**は，太傅の**越**之姑の子也，其の妹の夫の御史中丞の**諸葛玫**と**越**を説いて曰く、「主上之太弟と為るや，**張方**の意也。清河王（何回も廢太子となる）は本太子なり，公は宜しく之を立てるべし。」

越は許さず。重ねて之を言い，**越**は怒り，之を斬る。

■ 〔山東に王彌自立〕二月，**王彌**は青、徐二州を寇し，自ら征東大將軍と稱し，攻めて二千石を殺す。太傅の**越**は公車令（衛府に属す）の東萊の**鞠羨**を以て本郡太守と為し，以て**彌**を討たしめ，**彌**は撃ちて之を殺す。

【陳敏壊滅】

■ 〔陳敏陣営に英俊無し〕**陳敏**は刑政に章無く，英俊の附く所と為らず。子弟は凶暴にして，在る所患いと為る。**顧榮**、**周玘**等は之を憂う。廬江内史の**華譚**は**榮**等に書を遣りて曰く、

「**陳敏**は呉、會に盜據し，命は朝露にごとく危うし。諸君は或は符を名郡に割き（郡守に任ぜらる），或は列して近臣と為り，而して更に身を姦人之朝に辱め，節を叛逆之黨に降す，亦た羞じざる乎！呉の**武烈**（**孫堅**）父子は皆な英傑之才を以て，大業を繼承す。今**陳敏**の凶狡，七弟の頑冗なるを以て，**桓王**（**孫策**を長沙の桓王と追諡す）之高蹤を躡み，**大皇**（**孫權**）之絶軌を蹈まんと欲す，遠く諸賢を度るに，猶ほ當に未だ許さざる也。皇輿は東に返り（長安から洛陽），俊彦（才は千人を過ぎるをいう）は朝に盈つ，將に六師を擧げて以て建業を清めんとす，諸賢は何の顔ありてか復た中州之士を見る邪？」

榮等は素より**敏**を圖る之心有り，書を得るに及び，甚だ慚じ，密かに使いを遣わして征東大將軍の**劉准**に報ぜしめ，（**准**をして）兵を發して江に臨ま使む。己は内應を為さんとし，髪を剪りて信と為す。（5-230p）**准**は揚州刺史の**劉機**等を遣わして歴陽に出で**敏**を討たしむ。

■**敏**は其の弟の廣武將軍の**昶**をして兵數萬を將いて烏江（淮南郡の県、安徽省安慶道和县東北、現・馬鞍山市和县）に屯し，歴陽太守の**宏**を牛渚（安徽省蕪湖道當塗県、現・馬鞍山市当塗県）に屯せ使む。**敏**の弟の**處**は**顧榮**等が貳心有るを知り，**敏**に之を殺すを勧める，**敏**は従わず。

■ 〔陳敏は叛かれて自滅〕 昶の司馬の錢廣は、周玘の同郡の人也、玘は密かに廣をして昶を殺さ使めんとし、因りて宣言す、

「州下（揚州刺史は建業に治す）は已に敏を殺す、敢えて動く者は三族を誅せん。」

廣は兵を朱雀橋（建業の南）の南に勒す。敏は甘卓を遣わして廣を討たしめ、堅甲精兵盡く之を委ねる。顧榮は敏の之を疑うを慮り、故に往きて敏に就く。敏は曰く、

「卿は當に四出して鎮衛（人心を鎮安するは陳敏を守る事）すべし、豈に我に就くを得る邪！」

榮は乃ち出で、周玘と共に甘卓を説いて曰く、

「若し江東之事濟る可くば、當に共に之を成すべし。然るに卿は茲の事勢を觀るに、當に濟る理有るや不や？敏は既に常才にして、政令は反覆し、計は定まる所無く、其の子弟は各々已に驕矜なり、其の敗れるは必ず矣。而して吾等は安然として其の官祿を受ける、事敗れる之日、江西の諸軍（劉准の遣わす江に望む軍）をして首を函にして洛に送り、題して『逆賊顧榮、甘卓之首なり』と曰わ使めば、此れ萬世之辱也！」卓は遂に詐りて疾を稱し、女を迎え、橋（朱雀橋）を斷ち、船を南岸に收め、玘、榮と及び前の松滋侯相の丹楊の紀瞻と共に敏を攻める。敏は自ら萬餘人を帥いて卓を討ち、軍人は水を隔てて敏の衆に語りて曰く、

「本は力を陳公に戮せる所以の者は、正に顧丹楊、周安豐を以てなる耳。今皆な異なり矣、汝等は何を爲さん！」

敏の衆は狐疑して未だ決せず、榮は白羽扇を以て之を麾し、衆は皆な潰え去る。敏は單騎にして北に走り、追いて之を江乘（江蘇省金陵道句容県の北、現・鎮江市句容市）に獲る、歎じて曰く、

「諸人は我を誤てり、以て今日に至る！」

弟の處に謂って曰く、

「我は卿に負けり、卿は我に負かず！」（處の言を用いなかったことをいう）

遂に敏を建業に斬り、三族を夷ぐ。是に於いて會稽等の郡は盡く敏の諸弟を殺す。

■ 〔陳敏の首は洛陽に〕 時に平東將軍の周馥は劉准に代わりて壽春に鎮す。三月、己未（55、1日、元嘉曆朔は47辛亥とは8日のずれ？）朔、馥は敏の首を傳えて京師に至る。詔して顧榮を征して侍中と為し、紀瞻を尚書郎と為す。太傅の越は周玘を辟して參軍と為し、陸玩を掾と為す。玩は、機之從弟也。榮等は徐州に至り、北方の愈々亂れるを聞き、疑いて進まず、越は徐州刺史の裴盾に書を與えて曰く、

「若し榮等が顧望すれば、軍禮を以て發遣すべし！」

榮等は懼れ、逃げ歸る。盾は、楷之兄の子、越の妃の兄也。

■ 〔朱伺は力を以て賊を撃つ〕 西陽（湖北省江漢道黃岡県の東、現・黃岡市黃州区）夷は江夏を寇し、太守の楊鉞は督將を請いて之を議し。諸將は争いて方略を獻じるも、騎督の朱伺は獨り言わず。鉞は曰く、

「朱將軍は何を以て言わざるや？」

伺は曰く、

「諸人は舌を以て賊を撃つ、伺は惟だ力を以てする耳。」

鉞は又た問う、：

「將軍は前後賊を撃ち、何を以て常に勝つや？」

伺は曰く、

「兩敵共に對せば、惟だ當に之を忍ばん。(5-231p) 彼は忍ぶ能わず、我は忍ぶ能う、是を以て勝つ耳。」

鉞は之を善しとす。

■詔して楊太后の尊號を追復す。丁卯（3+60-47+1=17 日）、之を改葬し、諡して**武悼**と曰う。

■庚午（6+60-47+1=20 日）、清河王の**覃**の弟の豫章王の**詮**を立てて**皇太子**と為す。辛未（7+60-47+1=21 日）、大赦す。

■〔司馬越は許昌に鎮す〕帝は親ら大政を覽、心を庶事に留む。太傅の**越**は悦ばず、固く藩に出るを求む。庚辰（16+60-47+1=30 日）、**越**は出でて許昌に鎮す。

■高密王の**略**を以て征南大將軍と為し、荊州諸軍事を都督し、襄陽に鎮せしむ。南陽王の**模**を征西大將軍と為し、秦、雍、梁、益四州諸軍事を都督し、長安に鎮せしむ。東燕王の**騰**を新蔡王、都督司、冀二州諸軍事と為し、仍って鄴に鎮せしむ。

■〔司馬騰敗死、汲桑・石勒ら鄴を焼く〕公師籓は既に死し、**汲桑**（牧人、石勒の親分、成都王穎に附く）は逃げて苑中（山東茌平の牧苑）に還り、更に衆を聚めて郡縣を劫掠し、自ら大將軍と稱し、

「成都王の為に仇を報いる」

と聲言す。**石勒**を以て前驅と為し、向かう所輒ち克ち、**勒**を掃虜將軍に署し、遂に進みて鄴を攻める。時に鄴中の府庫は空竭し、而して新蔡の武哀王の**騰**の資用は甚だ饒なり。**騰**の性は吝嗇なり、惠を振う所無し、急に臨み、乃ち將士に米各々數升、帛各々丈尺を賜わり、是を以て人は用を為さず。**夏**、**五月**、**桑**は大いに魏郡太守の**馮嵩**を破り、長驅して鄴に入り、**騰**は輕騎にて奔り出、**桑**の將の**李豐**の殺す所と為る。**桑**は成都王の**穎**の棺を出して、之を車中に載せ、事毎に啓し而して後行ふ。遂に鄴宮（袁紹以来の宮殿）を焼き、火は旬日不滅せず。士民萬餘人を殺し、大掠し而して去る。延津より濟り、南に兗州を撃つ。太傅の**越**は大いに懼れ、**荀晞**及び將軍の**王贊**等をして之を討たしむ。

■〔成漢〕〔漢中の動乱に成漢関与〕秦州の流民の**鄧定**、**旬氏**等は成固（漢中道城固県西北十八里、現・漢中市城固県）に據り、漢中を寇掠し、梁州刺史の**張殷**は巴西太守の**張燕**を遣わして之を討たしむ。**鄧定**等は饑窘し、詐りて**燕**に降り、且つ之に賂し、**燕**は之が爲に師を緩める。**定**は密かに**旬氏**を遣わして救いを成に求め、成主の**雄**は太尉の**離**、司徒の**雲**、司空の**璜**を遣わして兵二萬を將いて**定**を救わしむ。**燕**と戦い、大いに之を破り、**張殷**及び漢中太守の**杜孟治**は城を棄てて走る。十餘日を積みて、**離**等は引いて還り、盡く漢中の民を蜀に徙す。漢中の人**句方**、**白落**は吏民を帥いて還りて南鄭（梁州刺史と漢中太守は治す、陝西省漢中道南鄭県、現・漢中市南鄭区）を守る。

■〔石勒と荀晞の激戦〕**石勒**は**荀晞**等と平原、陽平の間に相い持つこと、數月、大小三十餘戦い、互いに勝負有り。**秋**、**七月**、己酉（45-45+1=1 日、元嘉曆一致）朔、太傅の**越**は官渡に屯し、**晞**に為に聲援す。

■〔司馬睿を建業に鎮せしむ〕己未（55-45+1=11 日）、琅邪王の**睿**を以て安東將軍と為し、揚州の江南（時に周馥は壽春に鎮し揚州の江北を督す、故に睿は揚州の江南を督す）諸軍事を都督し、節を假し、建業に鎮せしむ。（5-232p）

■**八月**、己卯（15-15+1=1 日、元嘉曆一致）朔、**荀晞**は**汲桑**を東武陽（陽平郡の県、山東省東臨道朝城県、現・聊城市莘県）に撃ち、大いに之を破る。**桑**は退きて清淵（陽平郡の県、山東省東臨道臨清県、現・聊城市臨清市）を保つ。

■荊州（長沙・衡陽・湘東・邵陵・零陵・營陽・建昌の郡）、江州（桂陽郡）の八郡を分けて湘州と為す。

■ 【司馬睿の王導による人材登用】 **九月**，戊申（44-44+1=1 日），琅邪王の**睿**は建業に至る。**睿**は安東司馬の**王導**を以て謀主と為し，心を推して親信し，事毎に焉に咨る。**睿**の名論（名望）は素より軽く，呉人は附かず，居ること之久しくして，士大夫は至る有る者莫し，**導**は之を患うる。會々**睿**は出でて禊（不浄を祓い除く祭り）を觀る，**導**は**睿**をして肩輿（担ぐ輿）に乗り，威儀を具え，**導**は諸名勝（名望の優れたる士）と皆な騎從し，**紀瞻**、**顧榮**等は之を見て驚異し，相い帥いて道左に拜す。**導**は因りて**睿**に説いて曰く、

「**顧榮**、**賀循**は，此の土之望なり，宜しく之を引いて以て人心を結ぶべし。二子既に至れば，則ち來たらざる無し矣。」

睿は乃ち**導**をして躬ら**循**、**榮**に造ら使め，二人は皆な命に應じ而して至る。**循**を以て吳國內史と為す。**榮**を軍司（軍司馬）と為し，散騎常侍を加え，凡そ軍府の政事は，皆な之と謀議す。又た**紀瞻**を以て軍祭酒と為し，**卞壺**を從事中郎と為し，**周玘**を倉曹屬と為し，琅邪の**劉超**を舍人（晉の諸王國には謁者四人、中大夫六人、舍人十人あり）と為し，**張闔**及び魯國の**孔衍**を參軍と為す。**壺**は，**粹**（前卷惠帝太安二年にあり）之子。**闔**は，**昭**（吳の大臣）之曾孫也。**王導**は**睿**に説く、（東晉が興るのは、司馬睿が王導をよく用いる事による）

「謙を以て士に接し，儉を以て用を足らし，清靜を用いて政を為し，新（北の人）舊（江南の人）を撫綏すべし。」

故に江東は心を歸す焉。**睿**初めて至り，頗る酒を以て事を廢す。**導**は以て言を為す。**睿**は酌を命じ，觴を引いて之を覆す，此に於いて遂に絶つ。

【石勒は苟晞に撃破され、劉淵に帰順】

■ 【苟晞は汲桑・石勒を撃破】 苟晞は汲桑を追撃し，其の八壘を破り，死者は萬餘人。**桑**は**石勒**と餘衆を收め，將に漢に奔らんとし，冀州刺史の譙國の**丁紹**は之を赤橋（直隸省大名道旧順德府内、現・河北省邢台市）に邀え，又た之を破る。**桑**は馬牧に奔り，**勒**は樂平（山西省冀寧道昔陽縣、現・晋中市昔陽縣）に奔る。太傅の**越**は許昌に還り，苟晞に撫軍將軍、都督青、兗諸軍事，**丁紹**に寧北將軍，監冀州諸軍事を加え，皆な節を假す。

■ 【苟晞の厳格な政治】 晞は屢々強寇を破り，威名は甚だ盛んなり，善く繁劇を治め，法を用いるに嚴峻なり。其の從母は之に依り，晞は奉養すること甚だ厚し。從母子は將と為るを求め，晞は許さず，曰く、
「吾は王法を以て人に貸さず，將に後悔する無し邪！」

固く之を求む，晞は乃ち以て督護と為す。後に法を犯す，晞は節に杖りて之を斬り，從母は叩頭して之を救わんとし，聽さず。既に而して素服して之を哭して曰く、

「卿を殺す者は，兗州刺史なり。弟を哭する者は，**苟道將**（苟晞の字）也。」

劉漢 【石勒は遂に劉淵に附く】 胡の部大（胡人の一部の長）の**張蜀督**、**馮莫突**等は，衆數千を擁し，上黨に壁す，**石勒**は往きて之に従う，（5-233p）因りて**蜀督**等を説いて曰く、

「**劉單于**（**劉淵**）は兵を擧げて晉を撃ち，部大は拒み而して従わず，自ら度るに終に能く獨立せん乎？」曰く、

「能わず。」

勒は曰く、

「然らば則ち安んぞ早く屬する所有らざる可けんや！今部落は皆な已に單于の賞募を受け，往往聚まり議し，部大に叛き而して單于に歸さんと欲す矣。」

蜀督等は以て然りと為す。**冬**，**十月**，**督**等は**勒**に隨いて單騎にて漢に歸し，漢王の**淵**は**蜀督**を署して親漢

王と為し、**莫突**を爲都督部大と為す、**勒**を以て輔漢將軍、平晉王と為し、以て之を統べしむ。

劉漢烏桓の**張伏利度**は衆二千有り、樂平に壁し、**淵**は屢々招くも、致す能わず。**勒**は偽りて**淵**に罪を獲、往きて**伏利度**に奔る。**伏利度**は喜び、結びて兄弟と為り、**勒**をして諸胡を帥いて寇掠せしめ、向かう所前無し、諸胡は畏服す。**勒**は衆心之己に附くを知り、乃りて會に因りて**伏利度**を執り、諸胡に謂って曰く、「今大事を起こすに、我と**伏利度**と誰か主と為るに堪えるや？」

諸胡は威な**勒**を推す。**勒**は是に於いて**伏利度**を釋し、其の衆を帥いて漢に歸す。**淵**は**勒**に督山東征諸軍事を加え、**伏利度**之衆を以て之に配す。

■**十一月**，戊申（44、1日、元嘉曆朔は丁未43で1日ずれ）朔，日之を食する有り。

■甲寅（50-43+1=8日 元嘉曆），尚書右僕射の**和郁**を以て征北將軍と為し、鄴に鎮せしむ。

■**〔王澄は荊州都督を庶務せず〕**乙亥（11+60-43+1=29日 元嘉曆），王衍を以て司徒と為す。衍は太傅の**越**を説いて曰く、

「朝廷は危亂し、當に方伯に頼るべし、宜しく文武兼資（文武兼備）を得て以て之に任ずべし。」

乃ち弟の**澄**を以て荊州都督と為し、族弟の**敦**（王敦初登場？）を青州刺史と為し、之に語りて曰く、

「荊州に江、漢之固め有り、青州は負海之險有り、卿二人は外に在り而して吾は中に居り、以て三窟（戦国策に、馮煖は孟嘗君に謂って曰く、狡兔は三窟あり、僅かに其の死を免かるるを得るのみと）と為すに足る矣。」

澄は鎮に至り、**郭舒**を以て別駕と為し、委ねるに府事を以てす。**澄**は日夜酒を縦にし、親ら庶務せず、寇戎交々急なりと雖も、以て懷いと為さず。**舒**は常に切諫し、以爲く、

「宜しく民を愛し兵を養い、州境を保全すべし」

澄は従わず。

■**〔汲桑は樂陵に散る〕****十二月**，戊寅（14-13+1=2日），乞活の**田甄**^{けん}、**田蘭**、**薄盛**等は兵を起こし、新蔡王の**騰**の為に仇を報い、**汲桑**を樂陵に斬る。成都王の**穎**の棺を故井の中に棄て、**穎**の故臣は収めて之を葬す。

■甲午（30-13+1=18日），前太傅の**劉實**を以て太尉と為し、**實**は老を以て固辭し、許さず。庚子（36-13+1=24日），光祿大夫の**高光**を以て尚書令と為す。

■**〔潘滔は司馬越と荀晞に隙を作る〕**前北軍中侯の**呂雍**、度支校尉の**陳顔**等は、清河王の**覃**を立てて太子と為さんと謀る。事は覺われ、太傅の**越**は矯詔して**覃**を金墉城に囚う。初め太傅の**越**は**荀晞**と親善し、引きて堂に升起、結びて兄弟と為る。司馬の**潘滔**は**越**に説いて曰く、

「兗州は衝要なりて、**魏武**（60-61巻にあり）は之を以て創業す。**荀晞**は大志有り、純臣に非ざる也、久しく之に處ら令めば、則ち患いを心腹に生じん矣。若し青州に遷し、其の名號を厚くすれば、**晞**は必ず悦ばん。

（5-234p）公は自ら兗州を牧し、諸夏を経緯し、本朝を籓衛すれば、此れ所謂之れ未だ亂れざると為る者也。」

越は以て然りと為す。癸卯（39-13+1=27日），**越**は自ら丞相と為り、兗州牧を領し、兗、豫、司、冀、幽、并諸軍事を都督す。**晞**を以て征東大將軍、開府儀同三司と為し、侍中を加え、節を假し、青州諸軍事を都督し、青州刺史を領し、東平郡公に封じる。**越**、**晞**は是れ由り隙有り。

■**〔荀晞を青州刺史〕****晞**は青州に至る、嚴刻を以て威を立て、日々斬戮を行い、州人は之を「屠伯」（屠殺の長）と謂う。頓丘太守の**魏植**は流民の逼る所と為り、衆は五六萬、大いに兗州を掠め、**晞**は出でて無鹽（東平国の県、山東省東臨道東平県の東、現・泰安市東平県）に屯し以て之を討つ。弟の**純**を以て青川を領せしめ、刑殺

は更に**晞**より甚だし。**晞**は**植**を討ち、之を破る。

■ **[王彌は漢に帰す]** 初め、陽平の**劉靈**は、少くして貧賤にして、力は奔牛を制し、走りて奔馬に及び、時の人は之を異とすると雖も、能く舉げる莫し也。**靈**は膺（胸）を撫して歎じて曰く、
「天なる乎、何ぞ亂に當たる也！」

公師籓の起つに及び、**靈**は將軍を自稱し、趙、魏を寇掠す。會々**王彌**は**苟純**の敗る所と為り、**靈**も亦た**王贊**の敗る所と為り、遂に俱に遣使して漢に降る。漢は**彌**を鎮東大將軍、青徐二州牧に拜し、縁海諸軍事を都督し、東萊公に封じ。**靈**を以て平北將軍と為す。

■ **[寧州の李釗に支援]** **李釗**（李穀が光熙元年に死し、ここに至る）は寧州に至り、州人は**釗**を奉じて州事を領せしむ。治中の**毛孟**は京師に詣り、刺史を求め、累りに上奏し、省せ見れず。**孟**は曰く、
「君は亡し親は喪し、窮城に幽閉し（李穀が死して、寧州は包圍され解けない）、萬里は訴哀すれども、精誠感じる無し、生きるは死するに如かず！」

自ら刎はねんと欲し、朝廷は之を憐み、魏興太守の**王遜**を以て寧州刺史と為し、仍て交州に詔して兵を出して**李釗**を救わしむ。交州刺史の**吾彦**は其の子の**咨**を遣わして兵を將いて之を救わしむ。

▲ **慕容廆**は鮮卑大單于を自稱す。**拓跋祿官**は卒す、弟の**猗盧**は三部（祿官が国を分けて三部と為すは 82 卷惠帝 15 年にあり）を總攝し、**廆**と通好す。

孝懷皇帝上永嘉二年〈戊辰，308年〉

■ **春，正月**，丙午（42-42+1=1 日、元嘉曆一致）朔，日之を食す有り。

■ **丁未**（43-42+1=2 日），大赦す。

[劉漢] 漢王の**淵**は撫軍將軍の**聰**等十將を遣わして南に太行に據り、輔漢將軍の**石勒**等十將は東に趙、魏に下る。

■ **二月**，辛卯（27-12+1=16 日），太傅の**越**は清河王の**覃**（302 年皇太子、304 年廃す、7 月再度立てられ張方また廃す。清河王司馬遐の長男）を殺す。

[劉漢] 庚子（36-12+1=25 日），**石勒**は常山を寇し、**王浚**は撃ちて之を破る。

【張軌の病で涼州混乱、收拾へ】

[前涼] **[張軌は中風で張鎮纂奪を謀る]** 涼州刺史の**張軌**は風（中風か）を病み、口は言う能わず、其の子の**茂**をして州事を攝せ使む。隴西内史の**晉昌**（甘肅省安肅道安西県、現・酒泉市瓜州県）の**張越**は、涼州の大族なり、**軌**を逐いて而して之に代わらんと欲し、其の兄の酒泉太守の**鎮**及び西平太守の**曹祛**と、（5-235p）遣使して長安に詣り南陽王の**模**に告げて、**軌**の廢疾を稱せんと謀り、秦州刺史の**賈龕**を以て之に代えんと請う。**龕**は將に之を受けんとし、其の兄は**龕**を讓めて曰く、

「**張涼州**は一時の名士なり、威は西州に著れる、汝は何の德ありて以て之に代わるや！」

龕は乃ち止む。**鎮**、**祛**は上疎し、更に刺史を請う、未だ報ぜず。遂に檄を移して**軌**を廢し、軍司の**杜耽**を以て州事を攝せしめ、**耽**をして**越**を表して刺史と為さ使む。

■ **[張鎮は降り、曹祛は討伐]** **軌**は教を下し、位を避けて、宜陽（若いときに女几山に隠す、河南省河洛道宜陽県、現・洛陽市宜陽県）に歸老せんと欲す。長史の**王融**、參軍の**孟暢**は**鎮**の檄を蹋折し、閤を排して入りて言つて曰

く、

「晉室は多故にして、明公は西夏（河内の地）を撫寧す、張鎮兄弟は敢て凶逆を肆にして、當に鼓を鳴らして之を誅せんとす。」

遂に出でて、戒嚴す。會々軌の長子の實（続は寔）は京師より還り、乃ち實を以て中督護と為し、兵を將いて鎮を討たしむ。鎮の甥の太府（都督府）主簿令の狐亜を遣わして先ず往きて鎮を説き、爲に利害を陳べしめ、鎮は流涕して曰く、

「人は我を誤てり！」

乃ち實に詣りて罪に歸す。實は南に曹祐を撃ち、之を走らす。朝廷は鎮、祐の疎を得、侍中の袁瑜を以て涼州刺史と為す。治中の楊澹は馳せて長安に詣り、耳を盤上に割き、軌之誣せ被るを訴える。南陽王の模は表して瑜を停めんと請い、武威太守の張瑱も亦た上表して軌を留めんとす。詔して模の表する所に依り、且つ命じて曹祐を誅せしむ。軌は是に於いて實に命じて歩騎三萬を帥いて祐を討たしめ、之を斬る。張越は鄴に奔り、涼州は乃ち定まる。

■三月、太傅の越は許昌より徙りて鄧城に鎮す。

■[王彌は復活し許昌に入る] 王彌は亡散を收集し、兵は復た大いに振う。諸將を分遣して攻めて青、徐、兗、豫四州を掠め、過ぎる所郡縣を攻め陥し、多く守令を殺し、衆は數萬有り。荀晞は之と連戦し、克つ能わず。夏、四月、丁亥（23-11+1=13日）、彌は許昌に入る。

■[劉漢][王彌は洛陽に敗れ漢に帰順] 太傅の越は司馬の王斌を遣わして甲士五千人を帥いて入りて京師を衛らしめ、張軌も亦た督護の北宮純を遣わして兵を將いて京師を衛らしむ。五月、彌は輶輶より入り、官軍を伊北（伊水の北）に敗り、京師は大いに震え、宮城の門は晝閉じる。壬戌（58-40+1=19日）、彌は洛陽に至り、津陽門（洛陽城の南面東頭の第二門）に屯す。詔して王衍を以て都督征討諸軍事とす。甲子（60-40+1=21日）、衍は王斌等と出でて戦い、北宮純は勇士百餘人を募りて陳を突き、彌の兵は大いに敗れる。乙丑（1+60-40+1=22日）、彌は建春門を焼き而して東し、衍は左衛將軍の王秉を遣わして之を追い、七里澗に戦い、又た之を敗る。彌は走りて河を渡り、王桑と軹關（河南省河北道濟源縣の西北、現・濟源市）より平陽に如く。漢王の淵は侍中兼御史大夫を遣わして郊迎せしめ、令して曰く、

「孤は親ら將軍之館に行き、席を拂い爵を洗い、敬みて將軍を待たん。」

至るに及び、司隸校尉に拜し、侍中、特進を加え、桑を以て散騎侍郎と為す。

■[劉漢]北宮純等は漢の劉聰と河東に戦い、之を敗る。

■[前涼][張軌のみ晉に貢献す] 詔して張軌を封じて西平郡公とし、軌は辭して受けず。時に州郡之使は、至る有る者莫く、軌は獨り遣使して貢献し、歳時は絶えず。（5-236p）

[劉漢][劉淵は蒲子に遷都] 秋、七月、甲辰（40-39+1=2日）、漢王の淵は平陽を寇し、太守の宋抽は郡を棄てて走り、河東太守の路述は戦死す。淵は徙りて蒲子（山西省河東道隰縣、現・臨汾市隰縣）に都す。上郡の鮮卑の陸逐延、氐酋の單征は並びて漢に降る。

■[司馬越は移動頻繁] 八月、丁亥（23-9+1=15日）、太傅の越は鄧城（現・山東省荷沢市鄧城縣）より徙りて濮陽（直隸省大名道濮陽縣の南、現・河南省濮陽市濮陽縣）に屯す。未だ幾くもなくして、又た徙りて滎陽（河南省開封道滎澤縣、現・鄭州市滎陽市）に屯す。

[劉漢][王彌・石勒は鄴を寇す] 九月、漢の王彌、石勒は鄴を寇し、和郁は城を棄てて走る。豫州刺史の裴憲に詔して白馬に屯し以て彌を拒ましむ、車騎將軍の王堪をして東燕（河南省河北道汲縣、現・新鄉市衛輝市、or

延津県の東)に屯し以て**勒**を拒ましめ、平北將軍の**曹武**をして大陽(河東郡の県、山西省河東道平陸県の東北、現・運城市平陸県)に屯し以て蒲子に備えしむ。**憲**は、**楷**之子也。

劉漢〔**劉淵は皇帝即位**〕**冬，十月**，甲戌(10-8+1=3日)，漢王の**淵**は**皇帝**に即位し，大赦し，改元して永鳳とす。**十一月**，其の子の**和**を以て大將軍と為し，**聰**を車騎大將軍と為し，族子の**曜**を龍驤大將軍と為す。

■〔**并州刺史の劉琨の奮闘**〕**壬寅**(38-38+1=1日)，并州刺史の**劉琨**は上黨太守の**劉惔**をして鮮卑を帥いて壺關(山西省冀寧道長子県、現・長治市壺関県)を攻め使め，漢の鎮東將軍の**慕容達**は戦敗して亡げ歸る。

劉漢丙午(42-38+1=日)，漢の都督中外諸軍事、大司馬、領丞相の右賢王の**宣**は卒す。

劉漢〔**石勒は魏郡等席卷**〕**石勒**、**劉靈**は衆三萬を帥いて魏郡、汲郡、頓丘を寇し，百姓は風を望みて降附する者五十餘壘なり。皆な壘主に將軍、都尉の印綬を假し，其の強壯なるもの五萬を簡びて軍士と為し，老弱安堵するは故の如し。**己酉**(45-38+1=8日)，**勒**は魏郡太守の**王粹**を三台(水經注に鄴城西北に三台有りと。漢の建安15年魏武基をなす。中は銅雀台、高さ十丈、その後石虎は二丈を増す。南は金雀台、高さ八丈、北は氷井台で高さ八丈)に執り，之を殺す。

■**十二月**，辛未(7-7+1=1日、元嘉曆一致)朔，大赦す。

劉漢〔**劉淵は近臣異姓を悉く封じる**〕**乙亥**(11-7+1=5日)，漢主の**淵**は大將軍の**和**を以て大司馬と為し，梁王に封じる。尚書令の**歡樂**を大司徒と為し，陳留王に封じる。**后**の父の御史大夫の**呼延翼**を大司空と為し，鴈門郡公に封じる。宗室は親疎を以て悉く郡縣王に封じ，異姓は功伐を以て悉く郡縣公侯に封じる。

成漢〔**成の尚書令の楊褒の直言**〕成の尚書令の**楊褒**は卒す。**褒**は直言を好み，成主の**雄**は初めて蜀を得るや，用度は足らず，諸將は金銀を獻ずるを以て官を得る者有り，**褒**は諫めて曰く、
「陛下は官爵を設ける，當に天下の英豪を網羅すべし，何ぞ官を以て金を買う有らん邪！」
雄は之を謝す。**雄**は嘗て酔い，中書令を推し太官令を杖つ，**褒**は進みて曰く、
「天子は穆穆たり，諸侯は皇皇たり。安んぞ天子に而して酗(酔狂)を為す有らん也！」
雄は慚じ而して止む。

成漢成の平寇將軍の**李鳳**は**晉壽**(元葭萌関、四川省嘉陵道昭化県、現・広元市元壩区昭化鎮)に屯し，屢々漢中を寇し，漢中の民は東に荊沔(沔水は梁州より荊州の界に入るのでこう呼ぶ)に走る。詔して**張光**を以て梁州刺史と為す。荊州の寇盜は禁じず，詔して**劉璠**を起てて順陽刺史と為す，江、漢の間は翕然として之に歸す(劉璠の父劉弘の喪終らずにこれを内史とす、荊州の民は父を懷う)。

令和4年2月13日	書下し開始	10328文字
令和4年2月19日	書下し終了	21262文字